

本資料は 2020 年 9 月 29 日 (現地時間) 米国・ニューヨークおよびインド・ムンバイで発表されたプレスリリースの抄訳です。  
発表内容の詳細は原文をご覧ください。

【原文】URL: [www.tcs.com/tcs-global-business-impact-study](http://www.tcs.com/tcs-global-business-impact-study)

## ＜TCS グローバル調査＞ 大企業の9割が、コロナ禍において DX 推進のための予算を堅持・増大していることが明らかに

- 急速に発展するグローバル市場において成功する上で不可欠となる 6 つのデジタルケイパビリティをベンチマークに設定した調査
- デジタル化は 3 分の 1 弱の企業でしか進展していない一方で、デジタルケイパビリティの強化に取り組んでいる企業ほど、コロナ禍による減収から早期の回復が見込まれることが示唆

ムンバイ、2020 年 9 月 29 日: タタコンサルタンシーサービシズ(TCS)は、「デジタル環境の整備と新型コロナウイルス: 事業への影響の検証(Digital Readiness and COVID-19: Assessing the Impact)」と題したグローバル調査の結果を発表し、全体の9割の企業が、コロナ禍においてデジタルトランスフォーメーション(DX)推進のための予算を堅持もしくは増大させている実態を明らかにしました。

このグローバル調査は、北米、欧州およびアジアの 11 業界の大企業(うち 97%は売上高が 1 千万米ドル以上、44%は 1 億米ドル以上の規模)から約 300 人の経営者を対象として実施したものです。

パンデミックを克服する上で不可欠なデジタルケイパビリティとして以下の6つの要素が挙げられています。

- エンド・ツー・エンドのデジタルなカスタマーエクスペリエンス(CX)
- CX を継続的に改善するための AI に基づいたアナリティクス
- クラウド上の基幹システム
- 高度に自動化された基幹プロセス
- デジタルセンサーを使った追跡プロダクト
- デジタルエコシステムにおけるパートナーシップ

この調査では、コロナ禍以前からデジタルケイパビリティの向上が進展していた企業(「リーダー」と定義)と後発あるいは実践していない企業(「フォロワー」と定義)を比較しています。

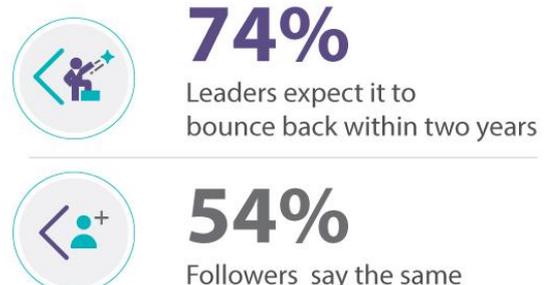
結果として、フォロワーの減収(73%)に比べ、リーダーの減収は比較的少ない(64%)ことが明らかになりました。

さらに、リーダーはビジネスにおける強い存在感と堅調な兆しを見せ、74%の企業が今後 2 年以内に減収を回復できる見込みである一方で、フォロワーでは 54%に留まりました。

### Revenue steady or higher



### And for the organizations that did experience revenue decline



TCS チーフマーケティングオフィサー (CMO) のラジャシュリー.R (Rajashree R) は、次のように述べています。「コロナ禍以前、企業にとってデジタルケイパビリティの獲得は、事業変革ための取り組みにおける鍵とされてきました。それにも関わらず、企業は当初の計画ほどにはデジタルバックボーンを強化できていなかったことが今回の調査で明らかになりました。真摯に DX に取り組んできた企業ほど、コロナ禍において好調な成績を示し、早い回復を見込める一方で、そうでなかった企業は、現在、必要とされる投資に注力し、懸命に追従しようとしている状況です」

### 「デジタル環境の整備と新型コロナウイルス: 事業への影響」- 主な調査結果

- コロナ禍において **68%**の企業が減収に直面する中、**90%**の企業が DX 推進のための予算を堅持もしくは増大させている。
- コロナ禍による技術投資分野の変更について、次の技術分野が大きく影響を受けたと報告された。
  1. コラボレーション技術 (**65%**)
  2. サイバーセキュリティ (**56%**)
  3. クラウドネイティブ技術 (**51%**)
  4. 次世代アナリティクス (**39%**)
- コロナ禍以前、平均的な企業における在宅勤務体制の導入状況は全従業員の **9%**にすぎなかったが、この割合はコロナ禍によって**7倍**に拡大している。  
2025 年には、平均的な企業において、全従業員の **40%**が在宅で勤務していると予測される。
- CX 向上に関するエンド・ツー・エンドの取り組みは事業を最も力強く牽引しており、すでに **25%**の企業が実行中、**39%**の企業が開発中である。  
同様に、CX 向上のためのアナリティクスや AI の活用もそれぞれ **24%**、**39%**となっている。
- 主要な事業プロセスを対象とした高度な自動化も注力分野となっており、すでに **23%**の企業が実行中、**44%**が開発中である。

本調査結果の詳細については、[こちら\(原文:英語\)](#)からご覧ください。

以上

### タタコンサルタンシーサービシズ (TCS) について

タタコンサルタンシーサービシズ (TCS) は、革新的かつ業界最高水準の IT サービス、コンサルティング、およびビジネスソリューションを世界中の大手企業に向けて提供し、その変革への道のりを支援している、50 年の歴史を持つ IT サービス、コンサルティング、およびビジネスソリューション企業です。TCS はコンサルティングを基盤とし、コグニティブ技術を活用した BPS、エンジニアリング・サービスやソリューションを総合的に展開しています。これらを卓越したソフトウェア開発の基準として認識されている、TCS 独自の「[ロケーションインディペンデント・アジャイル・デリバリーモデル \(Location Independent Agile™ delivery model\)](#)」を通じ、地理的な制約にとらわれることなく提供しています。

TCS は、世界最大規模の多国籍複合企業体である[タタ・グループ](#)に属し、最高水準のトレーニングを受けた**44万3,000人**を超える人材を擁し、世界**46カ国**で事業を展開しています。2020年3月31日を末日とする会計年度の売上高は**220億米ドル**で、インドナショナル証券取引所とボンベイ証券取引所にも上場しています。また、気候変動に対する積極的な取り組みや表彰を受けた地域活動を世界中で展開しており、[ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス](#)や [MSCI グローバル・サステナビリティ・インデックス](#)、[FTS4E グッド・エマージング・インデックス](#)をはじめ、主要なサステナビリティ指数の構成銘柄に名を連ねています。TCS の詳細については、[www.tcs.com](http://www.tcs.com) をご覧ください。